



にかほ市合併5周年記念特集

にかほのこれから…

にかほの地域力を生
み出す特別会計

たけうちさとし
竹内智 昭和 29 年生まれ 金浦町出身

【略歴】山梨大学大学院教授、にかほ市ふるさと宣传大使、白瀬南極探検隊記念館参与、第38次日本南極地域観測隊・越冬

にかほの地域力を生みだす

ど、自然の恵みをいつまでも享受したいと思えば、そこで暮らす人間として、それを守りたいと思うでしょう。

(菊池史利)

三つ目は、「奥の細道」最北の地として名高い象潟である。松尾芭蕉ブームにより日本の俳句人口は、現在1千万人ともいわれており、世界規模でも俳句人口は増加の一途をたどっているとのこと。

TDKの技術力は「フェライト子ども科学館」で、白瀬の探究心は「白瀬南極探検隊記念館」で展示され、青少年の夢とそれを実現しようとする熱き思いを応援している。また、虹満寺は市の観光文化発祥の地として、

の農産物の収穫とともに、四季折々を体感できる地もある。このように、最良の食材はいくつも揃っている。これを誰がどのように調理して、素晴らしい料理に作り上げるのか、これが課題である。行政組織と地域の枠を超えた新しいコミュニティーやNPOが主体となつて、これら食材の組み合わせから新しいレシピを作り出し、素敵で美味しい料理に仕上げてゆくことができないだろうか。

つまり、にかほ地域の構成員（市民や企業など）が、地域の課題を自らの課題として認識し、行政との協力関係を図りながら、自律的に課題の解決や地域とし

瀬記念館をめぐるサイエンスツアーや、秋田県最古の酒蔵と蛸満寺の歴史探訪ツアーや、さらには夏の岩ガキを売りにしたオイスターフエスティバルinNIKA H.O.のような取り組みも魅力的にはなかろうか。組み合わせによつては、国内だけでなく海外にも情報発信できる体験ツアーも考えられる。

このような多様な取り組みの中で次世代を担う後継者が育成され、にかほ市の持続可能な地域力が培われてゆくのではないかろうか。

それを期待しているは私だけではない。



きくち ふみとし
菊池由利 現和15年生上

【略歴】
平成 15 年秋田魁新報社入社。報道部、
政治経済部などを経て、同 20 年 10 月
から本荘支局にかほ市駐在。

議員から、国道や県道の歩道が除草されていない、との指摘がありました。市側の答弁は、国や県がコスト縮減のため、除草回数を減らしているとのことでした。行政も住民も、外から来る人に対してみつともないとと思うのであれば、双方が話し合つて対処しなければな

の花壇を、自主的に整備してい
る自治会やグループがあります。
このような活動の輪が、広がつ
てほしいと思います。行政に頼
り切らず、今までより一歩踏み
込んで、まちづくりに参画する
意識を持つことができれば理想
です。

住民には面倒なことで、「こ
れからは市政に参加するよう
意識を変えましょう」と言われ
ても、戸惑う市民が多いことで

JFLの試合が多く開催され、国の文化財や史跡に指定される文化的資源が多いことに魅力を感じている人も多いでしょう。県内各地の人から見ると、こ^こはとても暮らしやすく、あこ^がれを持たれています。ふるさとを離れて暮らしている、県内外の出身者も、豊かな資源が守られる^られることを、強く願つているのではないでしょうか。

にかほ市合併5周年記念特集

にかほのこれから…

(前ページから続く)
にかほ市で暮らし始めて丸2年を迎えるが、取材先で「〇〇方式」「〇〇の人の考えることは分からぬ」など、市民から旧町名を挙げて、揶揄する声を聞く機会があります。残念なことだとは思いますが、合併の実現までに糾余曲折があつたこともあり、やむを得ないことだとも思います。合併した市町村では、多かれ少なかれ、あることではないでしょうか。

必要との意見もある。どちらも当たつていると思います。

合併を選択した市町村、単独を選択した市町村。どちらが正しいということはない。どちらを選択したにしろ、自分の町の行く末を真剣に考えて、議論したのではないでしようか。現実として、合併したにかほ市が発足しているわけですから、前向きに物事を考えていきましょう。

どの市町村も今後、人口、財源、職員が減っていく。行政サービスの中で切り捨てられるものが必ず出できます。これまで行政が担つてきたことの一部を、住民がやらなければならぬ場面があるでしょう。

知らない。行政が直接できないことならば、地元の自治会や児童生徒に定期的に作業してもらう、ボランティアを募る、などの方法があると思います。

行政は今後、住民に行政サービスの低下と受け取られても、財政状況を説明したうえで「今まできていたことができなくなる」と、積極的に情報公開するべきです。行政が行うこと、できないことを明らかにすべきです。これは住民とともにまちづくりを進める上で、欠かせないのではないか。

住民にとつては、行政から負担を押し付けられたと感じることもあるでしょう。しかし、市内에서도、人の集まる駅前

しよう。これまで豊かな資源を享受しながら、ゆつたりと生活してきたわけですから。特に、財政的にも豊かで、暮らしやすい地域でしたから、住民は皆、それに慣れている。時間がかかることがあります。だとも思います。